

令和4年度 自己評価結果公表シート

茨木みのり幼稚園

スローガン

・みんなであそぼう！おおきくならう！
遊べる子どもになろう
豊かな体験
生きる喜びを

1. 教育理念

・人と人がかかわって豊かな遊びが発展していく環境を作る。
・子供の主体性や感性、知性そして人間性を育む教育の実践

2. 教育目標

・ひとりひとりの個性を大切にしながら、明るく生き生きとした子どもの育成に努めます。
・基本的な生活習慣、態度を育て健康で丈夫な身体をつくります。
・自分で考えて行動できる力を養います。
・人との関わりの中で社会性、協調性を養います。
・さまざまな体験を通して豊かな感性、創造性を育てます。

3. 教育方針

・子どもにとって良い環境を整え、明るく伸び伸びとした集団生活を営ませます。
・ひとりひとりの子どもの発達段階に応じた保育を行います。
・様々な人や物も出来事と出会い、興味や関心を大切に、意欲や思いやりのある子どもを育てます。

4. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

・10の姿をより深く学びあう
・遊びの環境
・異年齢・同年齢交流
・ICT化

5. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
10の姿をより深く学びあう	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目標、教育方針を理解し、10の姿と関連付けた子どもの育ちを考える。 ・ドキュメンテーション作成する研修を行い、写真を通して子どもの思い、育ちを読み解く。その様子を10の姿と照らし合わせていく。 ・ドキュメンテーションを作成し、10の姿を表示し保護者に発信する。
遊びの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を意識し、子どもが自ら遊びたくなる環境構成を工夫する。
異年齢・同年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな生活様式での人とのつながりを考える。 ・年長組が年少組、お世話する。 ・収穫物などを他クラスに届け見せにいく。 ・郵便あそびなどで、他クラスの友だちや先生に手紙を書いたり、届けたりする。 ・行事の取り組みなど見合いっこし、よかったことを認めたり言葉にして伝え合う。 ・クラス解体し、他クラスの友だちと関わり遊ぶ機会を作る。

ICT化	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者1人1台タブレットを導入。 ・システムを理解し、業務の効率化を考える。 ・保育に活用する。 ・保護者への発信のツールとして考える。 ・登降園の打刻、連絡、ドキュメンテーションの発信、料金管理、出欠確認、預かり保育利用登録などに用いる。
------	---

6. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・10の姿を通して子どもの姿を読み解くことで、より深く子どもの育ちを見ることができた。
・また、10の姿を意識しながら保育を行うことで、どのような活動においてもほとんど10の姿と関連していることがわかった。
・園庭に新しい遊具を導入した。外遊びの時間を多くとれるよう意識し、子どもたちが主体的に遊ぶ時間をとっていた。
・季節を意識する面ではタイミングを逃してしまっていることがあったので、様々な生き物や植物に触れて遊ぶ機会はしっかりと計画を立て、先を見通した取り組みが必要だった。
・室内あそびの環境としては、コーナーづくりなど今後も工夫が必要である。
・子どもたちが直接触れ合うことは難しかったが、行事の取り組み等、他クラスを誘いに行ったり見せ合ったりする等のかかわりを持つことができた。3学期ごろからは、友だちや保育者とのスキンシップを取りながら遊ぶ機会も増やせた。
・ICTについては保護者とのツールとしては少しずつ活用できているが、業務改善まではいたっていないので、今後の課題である。

7. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
10の姿をより意識した活動を展開する	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程、月ごとのねらいや内容を理解し、10の姿と関連付けて保育計画が立てられ、進めていけるようにする。
遊びの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の取り組みの計画を立て、時季を逃さないようにする。 ・子どもが自ら遊びたくなるコーナーづくりなど環境構成を工夫する。
異年齢・同年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・他クラスや異年齢と触れ合うための工夫をしていく。
ICT化	<ul style="list-style-type: none"> ・システムを理解し、業務の効率化を考える。 ・保育に活用する。

8. 学校関係者評価委員会の意見

・10の姿を意識した取り組みは良い。目標に向かって努力できている。
・季節の行事、季節の自然への関わりや取り組みは計画を立てて行い、大切にしてほしい。
・異年齢交流は日々の保育の中で自然にできているか。機会をわざわざ作らなくても自然に関われる環境であるといい。
・コロナ禍での人とのふれあいについても試行錯誤し取り組んでいる。ことばで気持ちを伝え合うことも大切で、近年の若者は短い文で話そうとするが、幼児期にしっかり言葉にして話す経験ができていることが今後の成長につながる。
・ICTの活用は教職員の負担軽減できるようになるには時間がかかる。タブレットでの業務改善はなかなか難しい。アプリなどをうまく活用できればよい。
・保育ではすぐに子どもの姿を撮って見せたり、見せたいものを見せるなど活用できればよい。
・園の特色を地域に発信ししてもっと周知してもらえたらよい。

9. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。

